

第4回協議会（勉強会）の概要について

1 日時

平成24年7月12日（木）15:40～16:45

2 出席者

- 平田静太郎委員長
- 松村佳子委員
- 花山院弘匡委員
- 佐藤進委員
- 富岡将人教育長

3 第4回テーマ

「奈良県が求める教員像について」

4 協議内容

- 本県では、教員採用にあたり、「奈良県が求める教員像」を示しており、この「求める教員像」を検証するため、教育委員会内で「教員に求められる資質能力に関するアンケート」を実施したことを教育長が説明した。また具体の結果については、事務局から、資質能力に関する12項目の中で重要と考えている項目の上位が「愛情」「使命感」「豊かな人間性」「学習指導力」「対人関係」であったことや、重要度の上位項目の充足度は文部科学省が実施した調査（H22）と概ね一致していること、さらに重要度と充足度の関係等についての説明があった。
- 委員からは、全国に比べて、特に「学習指導・授業づくり」の重要度が高いことについて、そのことが学力テストの結果が全国に比べて高いことにつながっているのではないかと、専門的知識を重視することはよいとの意見が出された。また、教員採用選考にあたり、「深い専門知識に裏付けられた実践的な指導ができ、地域社会との連携が進められる人」が、「求める教員像の姿」の1つに掲げられていることは共感できる等、肯定的な意見が出された。
- 教育長から、本調査の主な目的は、「奈良県が求める教員像」のベンチマーク作りであるが、求める教員像や理想の教員像については、様々な視点や考えがあることから、今後も検討していきたいとの説明があった。これに対して、委員からは、100%完璧な教員はいないが、それぞれの教員が専門性を発揮し、組織として取り組むことが重要であることや、管理職の資質能力として、適材適所に教員を配置するリーダーシップが大事であるとの意見が出された。
- アンケート項目については、教育は人づくりであり、人間性を育むという視点から、今回実施の12項目以外に、「郷土に対する愛情をもった教員」や「奈良県や地域に貢献できる教員」という項目、仕事ができるだけでなく非日常的なことにも対処できる「危機管理能力のある教員」という項目があってもいいのではないかと等の意見が出され、活発な議論が行われた。
- 次回は8月9日（木）で、委員より提案があり、「奈良の伝統、文化、自然等に関する学習『奈良TIME』」について議論を進めることにする。